

「言葉の院外処方箋」

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

第 120 回

『教育の実証研究 ～ 悩に寄り添う ～』

2022年7月30日京都での【研究助成テーマ：「ハンセン病を主題にした対人援助職者の苦悩を軽減するための人間教育の新規開発、実証研究」】で、田中真美先生から講演『がん哲学に学ぶ ～ 対人援助職者の苦悩に寄り添う ～』（清浄華院に於いて）を依頼された。【清浄華院は、現在は、浄土宗の大本山です。1200年前は御所の中にあり、道場がありました。法然（1133 -1212）は、比叡山延暦寺で修行をしましたが、現在も延暦寺とは深いつながりがあり、千日回峰の修行者が、修行 800 日から 900 日の京都大廻りの時には清浄華院が宿泊所になります。清浄華院には、明治維新前、会津藩士の山本覚馬（1828 - 1892）も逗留していたそうです。明治期に、山本覚馬は京都府副知事になり、妹八重（1845 - 1932）は新島襄（1843 - 1890）と結婚します。同志社の土地探しに奔走した山本覚馬は、薩摩藩跡地と相国寺の土地の一部を同志社にと準備します。】とのことである。

2022年3月8日、神谷美恵子（1914-1979）の研究者で、「長島愛生園の人びと」展覧会現地実行委員会の責任者でもある田中真美先生から、「長島愛生園」主催の講演会で、講演『「生きがいについて」～愛を以てこれを貫く～』を依頼された。神谷美恵子は、前田多門（1884-1962）の娘で、前田多門は、内村鑑三（1861-1930）の主宰する「柏会」に属していた。新渡戸稲造（1862-1933）は、神谷美恵子の両親の仲人でもあった。展覧会『長島愛生園の人びと ～ ハンセン病、隔離と希望』（立命館大学国際平和ミュージアム中野記念ホールに於いて）は、主催：長島愛生園歴史館／共催：立命館大学生存学研究所、特定非営利活動法人ハンセン病療養所世界遺産登録推進協議会、国立ハンセン病資料館、日本ハンセン病学会であった。2012年、長島愛生園の医師であった神谷美恵子の『神谷美恵子記念がん哲学カフェ』が開催され、2014年には、「神谷美恵子 生誕 100 年」の時には、故 日野原重明先生（1911-2017）の講演と神谷美恵子の次男：神谷徹氏との鼎談に出席したことが鮮明に思い出された。「人生の邂逅の継続性」を実感する日々である。まさに、【60歳代には60歳代の恵みが、豊かにあることを覚えて感謝します。明日も美しいけれど、夕日もまた美しいのです。】（三浦綾子；1922 - 1999）を痛感する日々である。